

2013 年度 自己評価結果公表シート

平安女学院大学附属幼稚園

1、本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を教育の基本に据え、「自分のことばかりでなく他人のことも考えることのできる子ども」を目標にしています。

- ① 自然とたくさん触れ合うなかで、子どもが自分の力で考え、心を動かし、探求し、判断し、想像力や創造力をもっていきいきと活動する。
- ② いろいろな人と一緒に過ごすなかで、自分と友だちや他の人々との違いを認めるとともに、信頼を持ってともに生活する。
- ③ 絵本とたくさん触れ合うことで、豊かな感性をはぐくむ。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・個別支援の必要な子どもの個別指導計画を、特別支援教育園内委員会を中心として作成する。
- ・大学教員と共同で、実践研究に取り組む。
- ・豊かな自然を取り入れた保育が充実するように、保護者に協力を依頼して、環境の整備を行う。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
特別支援教育園内委員会で十分な話し合いの時を持ち、加配教諭と担任教諭とで個別指導計画の立案を支える。	学期の終わり毎に、支援が必要な子どもの個別の状況を報告する場を持ち、課題の明確化を図っている。
保育学会に発表するための研究を行う。	大学教授の協力を得て、研究発表のポスター制作に取り組んでいる。
自然観察林が子どもたちにとって安全な遊び場になるように、また遊びが発展するように環境を整える。	保護者（主に父親）の協力を得て、自然観察林の危険個所の点検、及び見通しの悪い部分の整備を行った。
危機管理・安全管理を充実させる。	園独自の防災マニュアルの作成をするための話し合いを継続する。防災用品、特に防災ずきんの使用方法を周知徹底している。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・重点的に取り組むとしていた個別指導計画の作成が、不十分であった。引き続き、特別支援教育園内委員会のリードが必要である。
- ・研究活動を、年間通して取り組むことができた。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
個別支援の必要な子どもの、個別指導計画の作成が不十分であったので、充実を図る。	昨年に引き続き、特別支援教育園内委員会の開催を増やす。
未就園児親子登園クラスの内容の検討を行う。	行ってきた内容を振り返り、検討した上で、次年度の目標を設定する。

6、学校関係者の評価

【保育について】

- ・一人ひとりの個性を認めてくれる事で、“ボク・ワタシはこれでいいんだ！”と自己肯定感が生まれてくる保育である。
- ・自由にのびのび自分のペースで遊べる。
- ・自然観察林にツリーハウスや山小屋などもあり、自然が溢れているので、植物や昆虫にいつでも触れ合うことが魅力的である。
- ・いつでも好きなだけ泥水遊びができる。
- ・プールが大きく夏場は毎日プールに入ることができる。
- ・蔵書 3000 冊の図書室があるので、いつでも絵本に触れ合うことができる。

【教員の資質について】

- ・少人数なので、先生方皆で全園児を見守って下さっており、子ども一人ひとりにゆったり関わって下さっている。別学年の先生方も、顔を合わせると子どもの様子を伝えて下さる。
- ・ベテランの先生が多いことで、安心して子どもたちを預けることができる。
- ・子どもたちだけでなく、保護者の悩みも気軽に相談できる。

【行事について】

- ・どの行事にしても、子どもの気持を尊重して下さる。
- ・家で行うことができない季節の行事をしてくださる事で、古くからの日本の伝統行事を学ぶことができる。
- ・キリスト教の行事が多くあるので、感謝の心を養える。
- ・収穫感謝祭やチャペル礼拝など、保護者も参列することができる。
- ・卒園しても、卒園児クリスマス会や夏祭りを行って下さる事で、いつでも卒園児が遊びに行ける雰囲気があり、先生方も温かく迎えて下さる。

【その他】

- ・お迎えに行くことで、保護者同士の交流が持てる。

【改善してほしいこと】

- ・朝遅く、お迎えが早いので、他園の保護者の方にびっくりされる。
- ・聖歌以外の歌（童謡など）ももう少し教えてほしい。
- ・観察林の扉が開閉しにくく、何度か指をつめている。
- ・観察林駐車場を整備してほしい。（アスファルトにしてほしい。境界線をわかりやすくしてほしい。）

7、財務状況

公認会計士による監査の結果、適正であると認められている。